

「巖島合戦後の巖島キリシタン事情」

フランシスコ・ザビエル（1506年頃4月7日—1552年12月3日）。

1550年（天文19年）8月、ザビエル一行は肥前国平戸に入り、宣教活動を行った。

同年10月下旬には、信徒の世話をトーレス神父に託し、ベルナルド、フェルナンデスと共に京を目指し平戸を出立。

11月上旬に周防国山口に入り、無許可で宣教活動を行う。

周防の守護大名・大内義隆にも謁見するが、男色を罪とするキリスト教の教えが義隆の怒りを買い、同年12月17日に周防を発つ。岩国から海路に切り替え、堺に上陸。

1551年（天文20年）1月、一行は念願の京に到着。

戦乱による室町幕府の権威失墜も背景にあり、京での滞在をあきらめたザビエルは、山口を経て、1551年3月、平戸に戻る。

1551年4月下旬、ザビエルは、平戸に置き残していた献上品を携え、三度山口に入り、大内義隆に再謁見。それまでの経験から、貴人との会見時には外観が重視されることを知っていたザビエルは、一行を美服で装い、珍しい文物を義隆に献上した。

献上品は、天皇に捧呈しようとして用意していたインド総督とゴア司教の親書の他、望遠鏡、洋琴、置時計、ギヤマンの水差し、鏡、眼鏡、書籍、絵画、小銃などであった。ザビエルは、初めて日本に眼鏡を持ち込んだといわれる。

献上品の品々に喜んだ義隆はザビエルに宣教を許可し、信仰の自由を認めた。また、当時すでに廃寺となっていた「大道寺」をザビエル一行の住居兼教会として与えた（日本最初の常設の教会堂）。

ザビエルはこの大道寺で一日に二度の説教を行い、約2ヵ月間の宣教で獲得した信徒数は約500人にもものぼった。

ガスパル・ヴィレラ（Gaspar Vilela）は、1525年（大永5年）頃にポルトガルのアヴィシユに生まれたとされる。イエズス会⁽⁰⁾に入会し、1551年（天文20年）、兄弟らとともにインドのゴアに入り、司祭となる。

1554年（天文23年）にはインドゴアを発ち日本へ向かった。

1556年（弘治2年）、イエズス会インド副管区長ヌーネス・バレットとともに豊後府内（現大分市）に上陸し、日本での布教活動を開始した。

1558年（永禄元年）バルタザール・ガーゴ神父に代わり平戸布教を担当し、約1500人に洗礼を授けたが仏教徒と対立し、領主松浦隆信（道可）により退去を命じられ、一時府内に戻った後、フランス

コ・ザビエルと共に戦国時代の日本を訪れたイエズス会宣教師コスメ・デ・トーレスの指示を受け、京での布教を目指した。

厳島合戦（1555年）の4年後の事

翌1559年（永禄2年）、ガスパル・ヴィレラは、日本人の肥前白石（現在の平戸市）出身で、目が不自由で琵琶法師であったが、フランシスコ・ザビエルに出会って洗礼を受けたロレンソ了齋（ロレンソりょうさい）⁽¹⁾ら同伴者二人と京都入りを果たす途中、船は厳島に碇泊（ていはく）した。

ガスパル・ヴィレラ神父はかねてここにフランシスコ・ザビエル神父から洗礼を受けたキリシタンがいて、神に対する愛のために多くの艱難（かんなん・困難に出あって苦しみ悩むこと）と迫害に耐えていると聞いて慰めたいと思っていた。

神父は同伴者二人といっしょに、厳島の大明神といって日本全国で最も有名な神社の一つを見に行った。神父たちがその社の五十プラザ（1プラザは約2.2メートル）も長さのある廊下に来た時に、巫女というその神の女魔法師がそこにいた。

ガスパル・ヴィレラ神父一行は、厳島島内で唯一のある信者を訪ねた。

1551年5～6月頃、フランシスコ・ザビエルからかって山口大道寺で洗礼を受けた約500人にもものぼる最初の人々の一人で、⁽²⁾「山口」の王が殺され、その町が破壊された後で、彼は妻といっしょにここ宮島に移って来ていたのであった。

キリシタンのフェリペは自分たちが宮島に来て最初の数年かは、地震や火事や、夜聞こえる騒動が大きく、神社も燃え上がり⁽⁴⁾、山も家も崩れるかと思われるほどで苦しめられたことや、1555年厳島合戦の最中（さなか）のことや、キリシタン弾圧⁽³⁾で山口から逃れ来たが十年間というもの神父にも会わず、貧困の中厳島で過ごしてきたため、彼らは私を見るや、喜びのあまり涙を流した。

私は彼らがロザリヨを持ち、それに錫（すず）の十字架をつけているのを見た。そのほか彼らは壁に十字架を描き、毎日その前で祈っていた。我らは一夜とその翌日の一部を、彼らのもとに過ごした。二人とも告解（こくかい・カトリック教会においては、洗礼後に犯した自罪を聖職者への告白を通して、その罪における神からの赦しと和解を得る信仰儀礼）をした。

1574年（天正2年）、日本地区布教長フランシスコ・カブラルが京都へ行く途中山口に寄り、厳島で八十二歳になっていたフェリペと六十歳の妻を訪問し一泊した。故にフェリペは1492年（明応元年）生まれと云うことになるのか。（1574-82=1492）

（註）

（0）イエズス会は、聖イグナチオ・デ・ロヨラ（1491～1556）を中心とする7人の同志によって設立されたカトリックの男子修道会であり、現在総本部はローマにあります。

創立者の一人である聖フランシスコ・ザビエル（1506～1552）は1549年の来日と同時に、日本にはじめてキリスト教を伝えました。その後、イエズス会は徳川幕府の厳しい禁教政策によって会員の活動ができなくなるまで、日本の教会の発展に努めました。

近代に入り、明治政府がキリスト教の宣教を解禁してから、イエズス会は1908年に再来日し、教皇ピウス10世の意向に応じて、東京に上智大学を設立しました。

(1) ロレンソ了齋（ロレンソりょうさい）

フランシスコ・ザビエルは、1550年（天分9年）11月山口に入り、12月17日山口発つ。

1551

年（天文20年）1月京から平戸へ戻る途中山口に寄る。4月下旬、三度山口に入った。

大内義隆に再謁見。それまでの経験から、貴人との会見時には外観が重視されることを知っていたザビエルは、一行を美服で装い、珍しい文物を義隆に献上した。献上品は、天皇に捧呈（ほうてい・敬意を示して物を贈ること）しようとしていたインド総督とゴア司教の親書の他、望遠鏡、洋琴、置時計、ギヤマン（ガラス）の水差し、鏡、眼鏡、書籍、絵画、小銃などであった。ザビエルは、初めて日本にメガネを持ち込んだといわれる。

これらの品々に喜んだ義隆はザビエルに宣教を許可し、信仰の自由を認めた。また、当時すでに廃寺となっていた大道寺（だいどうじ）をザビエル一行の住居兼教会として与えた（日本最初の常設の教会堂）。

ザビエルはこの大道寺で一日に二度の説教を行い、約2ヵ月間の宣教で獲得した信徒数は約500人にもものぼった。また、山口での宣教中、ザビエルたちの話を座り込んで熱心に聴く盲目の琵琶法師

がいた。彼はキリスト教の教えに感動してザビエルに従い、後にイエズス会の強力な宣教師となるロレンソ了齋（ロレンソりょうさい）となった。

(2) ザビエルが山口大道寺（だいどうじ）で1551年（天文20年）4月下旬から約2ヵ月間の宣教で獲得した信徒。この時期にフェリベ夫妻は洗礼を受けたと思われる。

※「柵守房頭覚書付解説」福田直記 発行宮島町 平成16年2刷 巻末の年表の参考事項欄に永禄2年（1559）房頭65歳の項に「この年頃 キリシタン信者島に在住する（イエズス会日本史）とあり。（信者の居住地不詳）」

(3) キリシタン弾圧・・・1587年以来日本の太守秀吉が従来の方策を変えて伴天連追放令を発令。

キリスト教伝来時に入信した武将・商人のほとんどは、南蛮渡来の文物 特に硝石（しょうせき黒色火薬の主成分）の入手が目的であったとされる。

(4) 神社も燃え上がり・・・永い歴史の間には幾度となく自然災害や火災に見舞われてきたが、その度に島内外の人々の篤い信仰心に支えられて修理再建されてきた。

参考文献：「芸備キリシタン史料」H・チーリスク編著 吉川弘文館 1968年
：「ルイス・フロイス『日本史』第1部22章

参考 Web：ウィキペディア

「フランシスコ・ザビエル」・「ガスパル・ヴィレラ」最終更新 2010年12月9日(木) 09:56、
「ロレンソ了斎」最終更新 2010年10月24日(日) 04:50